

事業名 放置柿の有効活用—獣害対策ともったいない食資源利用のために—
(地域づくり活動NPO事業助成事業) 生かそう丹波の食グループ

1 事業が目指すところ

兵庫県の丹波地域(丹波市・丹波篠山市)には、放置柿が多くあってクマやサル、アライグマなどを里に呼び寄せる獣害の原因になるので柿の木を切る、柿をもぎ取る、などの指導がされています。柿は栄養価が高く、入手しやすい地元産の安全安心な果物で、丹波の誇る食資源の一つです。

我々はそれらを柿ジャムに加工してもったいない食資源の有効利用を図るとともに獣害対策にも寄与する活動を行っています。具体的には放置された富有柿を提供してもらって、柿ジャムに加工して一部を提供者に還元するとともに、試食販売会や柿ジャムづくり講習会を開催してレシピ公開と柿ジャム製法の伝授をして、市民の皆さん方で放置柿の食資源化と獣害防止に貢献して戴く活動をボランティアとして実践するとともに、柿ジャムを地元の地産地消のお店で販売してもらっています。



2 活動内容

生かそう丹波の食グループは、それぞれ独自の活動と目的を持って活動している「元丹波地域ビジョン委員会」、「どんぐりの会」、「家庭菜園グループ」の3つのグループが丹波の勿体ない食材の有効活用を目的に計19名で協働して活動しています。

2024年度は、前年度に冷凍保存しておいた柿(約190kg)を使って、4月以降に柿加工(延べ13回)、柿ジャム試食販売会(3回)、柿ジャムづくり講習会(2回)を実施しましたが、地元の氷上高校生が2回とも講習会に参加してくれました。柿ジャムは地元の道の駅「丹波おばあちゃんの里」他、農協直売店等5店舗にて販売中で、昨年10月以降に約400個を販売しました。

3 成果や課題

本年度の成果として特筆すべき事項は『ひょうごボランタリー基金地域づくり活動NPO事業助成事業』を受けることができ、材料調達や費用弁償等、資金面で活動を安定させることができた事です。また、我々の活動が、いわば公的に意義あるものとして認められた事で、柿ジャム販売の委託がスムーズに進んだことです。

最大の課題は、昨秋が柿の裏年でかつ天候や害虫のせいで近年まれな不作で、一昨年に放置柿を大量に分けて頂いた家々からも全く分けてもらえなかったため、2025年度には冷凍柿の在庫が少なくなって試作加工は可能でも、今秋の収穫期後に本格的な柿加工・販売をせざるを得ない状況にあることです。

4 今後の展望と成果の活用

これまでの活動で丹波地域の人々に我々の活動が、例えば放置柿の提供など、一定の成果を上げていますが、更にその成果を大きくするためには、①我々の活動目的をより広く市民に周知して、我々とともに食資源の有効化や獣害対策に寄与する人材を育成していくこと。②我々のボランティア活動に参加してくれる人を増やすこと。③柿ジャムだけでなく柿チップス・柿羊羹等の柿の加工品開発を進めること。④次代を担う地元の3高校の生徒たちとのコラボを一層進めること。などに尽力して行きたいと考えています。